

泣いてわらって成長して

園長 安達 譲

yuzuru@hijiri.ed.jp

明日は年長組さんの卒園式です。週間予報等では雨が心配されていましたが、明日は雨も降らず、園庭でみんな一緒に卒園式を迎えられることができそうです。最近、卒園する年長組の子どもたちに「ありがとう」って言われたり、お手紙をもらったりすることがありますが、そのたびに思うことは「園長先生の方がありがとうだよ。」です。日本の幼児教育の父、倉橋惣三先生は著書の「育ての心」の中で「育ての心は相手を育てるばかりではない、それによって自分も育てられてゆく。」と書かれています。幼児教育や家庭教育も含めて教育というものはお互い様だなあいつも思います。子どもたちに対して保護者の方々も先生たちも惜しみない愛情を注ぎ、その愛情のおかげで子どもたちはすくすくと育っているのですが、その子どもたちが毎日一生懸命生きている姿やいろんなことを乗り越えながら日々成長していく姿のおかげで保護者のみなさんも先生たちもがんばれたんだと思います。

卒園式では「こころのねっこ」という歌を歌うのですが、歌詞の中に次のような一節があります。

「ないてわらった毎日がみんなのこころのバネになった。」

わらったことだけでなく、泣いてばかりでもなく、嬉しいこと悲しいことを経験しながら子どもたちは成長し、子どもたちの中にバネのような復元力(レジリエンス)が育ちます。明日、卒園する年長の子達もこの3年間で立派に成長してきましたが、保護者の方々には時には手を貸さず見守ったり、時にはしっかりと支えていただいたりしていただく必要があるかと思います。「卒園」という節目を迎え、お家で、「よくがんばったね。」というメッセージを保護者の方から送っていただき子どもたちが自分自身の成長を実感できる機会になれば幸いです。愛されて育った子、信じてもらって育った子は、自分自身を信じていることができるので、少しの失敗や困難があっても、又、がんばることが出来ます。

どうぞ、全てのこどもたちのこの1年の成長を喜びながら、また、親としてがんばった自分自身も褒めていただきながら、これからも我が子の成長する力を信じて、応援して頂ければと思います。